

平成 27 年度 事 業 報 告

(2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日)

本年度における会員現況と主な事業内容を以下項目別に報告する。

1. 会 員 状 況

会員種別	平成 27 年度			参 考	
	2015. 4. 1 現在数 (A)	2016. 3. 31 現在数 (B)	年度内の増減 (B-A)	2015. 3. 31 現在数 (C)	前年度末 との対比 (B-C)
名誉会員	20	21	1	20	1
終身会員	158	154	△4	141	13
正 会 員	3, 104	3, 046	△58	3, 089	△43
学生会員	787	834	47	794	40
(合計)	4, 069	4, 055	△14	4, 044	11
賛助会員	210 社 (293 口)	204 社 (285 口)	△6 社 (△8 口)	208 社 (291 口)	△4 社 (△6 口)
特殊会員	85 社 (113 口)	82 社 (108 口)	△3 社 (△5 口)	84 社 (112 口)	△2 社 (△4 口)

2. 定款・規則等の制定・改正

- | | |
|-------------------------|----------------|
| (1) 選奨規則の改正 | (2015. 4. 27) |
| (2) 選奨規則の改正 | (2015. 7. 23) |
| (3) 調査研究委員会規則の改正 | (2015. 10. 16) |
| (4) 学会活動貢献賞選定規則の改正 | (2015. 10. 16) |
| (5) 学会活動貢献賞受賞予定者選定手続の改正 | (2015. 10. 16) |
| (6) 学術委員会規則の改正 | (2016. 1. 22) |
| (7) 音響教育委員会規則の制定 | (2016. 1. 22) |

3. 機 関 誌 の 刊 行

- (1) 日本音響学会誌
本期間は毎月 1 日 (1 号は 12 月 25 日) を発行日とし、次の 12 冊を刊行した。

71 巻 4 号～72 巻 3 号 (2015 年 4 月～2016 年 3 月)

巻 号	71 巻									72 巻			計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
本文ページ	42	52	38	66	74	60	56	94	46	60	40	70	698
巻頭言			2							2			4
追悼文												2	2
音叉				2			2						4
論文	10 (1)	7 (1)	9 (1)	7 (1)	8 (1)	8 (1)	21 (2)	36 (4)	8 (1)	20 (2)	7 (1)	17 (2)	158 (18)

主 な 論 文 記 事	技術報告		3 (1)										3 (1)	
	研究速報			2 (1)	3 (1)		4 (1)		6 (2)	4 (1)		6 (2)	4 (1)	29 (9)
	解説 (小特集を含む)	25 (3)	32 (5)	20 (3)	44 (7)	25 (4)	39 (6)	28 (4)	42 (6)	24 (3)	31 (5)	19 (3)	39 (6)	368 (55)
	会議報告 (シンポジウム/活動報告)									2 (1)				2 (1)
	連載企画	2 (1)												2 (1)
	研究発表会報告					1						1		2
	選奨記事・紹介記事					13								13
	書評							1						1
	研究会発表論文一覧					22								22
	コーヒーブレイク	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
	71 巻総目次									4				4
	AST 目次		2		2		2		1		1		1	9
	AST abstract		3		2		2		3		2		1	13
	学会記事等	2	2	2	3	2	2		3	1	1	4	2	24
	投稿規定										19			19
	編集後記	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	会告	15	27	31	24	23	67	27	31	21	11	63	19	359
	広告	9	13	11	13	9	13	10	14	11	11	9	13	136
	発行部数	4800	4800	4800	4800	4800	4700	4700	4700	4700	4700	4700	4700	56900
	小特集タイトル		※1		※2		※3	※4	※5		※6		※7	

注 1) 欄中の () 内数値は編数。

2) 会告の内容は、研究会開催案内、音響関係国内並びに国際会議、その他周知記事である。

※1 近年の音響トランスデューサの研究動向

2 生物音響学の最近の動向 —発声、聴取機構における種の多様性—

3 音声は何を伝えているか

4 調音運動の計測とその応用

5 スパース表現に基づく音響信号処理

6 音楽音響と音楽関連産業

7 子どものための音環境

(2) 英文論文誌 Acoustical Science and Technology

本期間は、2015年5月、7月、9月、11月、2016年1月、3月の各1日を発行日とし次の6冊をオンラインジャーナルとして刊行した。

Vol. 36 No. 3~Vol. 37 No. 2 (2015年5月~2016年3月)

Vol.		Vol. 36				Vol. 37		計
No.		3	4	5	6	1	2	
本文ページ		83	109	81	84	54	44	455
主 な 論 文 ・ 記 事	Paper	71 (9)	40 (4)	53 (5)	59 (6)	20 (2)	11 (1)	254 (27)
	Technical Report		7 (1)			15 (2)	9 (1)	31 (4)
	Acoustical Letter	9 (3)	48 (13)	25 (7)	3 (1)	14 (4)	20 (5)	119 (33)
	Invited Review		11 (1)		11 (1)			22 (2)
	和文誌英文目次	2	2	2	2	2	2	12
	和文誌論文等内容梗概	1	1	1	1	2	2	8
Vol. 36 総目次					7			7
特集号タイトル		※1			※2			

注) 欄中の () 内数値は編数。

※1 Special issue on Ultrasonics

※2 Special Issue on Applied System

- (3) 科学技術振興機構が主催する電子ジャーナル共同利用センター (J-STAGE) のサイト (URL <http://www.jstage.jst.go.jp/browse/ast/-char/en>) で、引き続いて Acoustical Science and Technology 誌 (AST 誌) を公開した。

4. 研究発表会の開催

- (1) 春季研究発表会は、2015年3月16日、17日、18日の3日間、中央大学後楽園キャンパスを会場として開催した。参加者実数は、1,376名であった。

申込件数は551件、このうち、スペシャルセッションは8件、「音場の収録・再生における研究・現場の接点 II」、「音声知覚実験とその手法 —パターンプレイバックから STRAIGHT まで—」、「音楽音響と音楽関連産業 II」、「超音波センサ技術の最新開発動向」、「知られざる耳鳴の実態とメカニズム —その2 耳鳴における最近の科学と治療」、「マルチモーダルな音のデザイン」、「災害等非常時屋外拡声システムの最新の学会動向」、「軟骨伝導の基礎研究と補聴器・携帯電話・イヤホンへの応用」であった。

学生並びに新たに研究発表会に参加した方を対象とするビギナーズセミナーを開催した。なお、今回から賛助会員が、学生に情報を提供する場として利用いただくことを目的とした交流会を開催した。また、賛助会員のポスター展示を実施し、1社が展示を行った。

- (2) 秋季研究発表会は、2015年9月16日、17日、18日の3日間、会津大学を会場として開催した。参加者実数は、940名であった。

申込件数は552件、このうち、スペシャルセッションは8件、「聴覚情景知覚の神経科学の新展開」、「音声表情に着目した情報処理技術 —現状認識と将来展望—」、「これからの音響シミュレーション技術」、「環境騒音の社会調査」、「建築・環境音響実務への数値解析の応用と課題」、「ヒアリング・ループとその他の補聴支援技術」、「自動車の音にこだわる —制御からデザインへ—」、「プログラミングと音響教育」で実施した。

なお、9月15日、会津大学において、東北支部が主催の東北支部創立60周年記念講演会・記念式典を開催した。講演会は、「暮らしに生きる音の科学」をテーマに3件の講演で構成した。

- (3) 春季並びに秋季の発表分野、講演件数及び特別講演は次表のとおりである。

分野別		春季	秋季
講演件数	音 声 A	69	69
	音 声 B	81	77
	聴覚/聴覚・音声	46	38
	電 気 音 響	117	88
	電気音響/聴覚(共催)	10	-
	音 楽 音 響	17	18
	騒 音 ・ 振 動	22	22
	建 築 音 響	32	75
	超音波/水中音響	70	64
	アコースティック・イメージング	10	6
	音 響 教 育	6	4
	音支援 (音バリアフリー)	7	10
	熱音響技術	10	8
	音のデザイン	7	6
	「音場の収録・再生における研究・現場の接点 II」	4	-
「音声知覚実験とその手法 —パターンプレイバックから STRAIGHT まで—」	4	-	
「音楽音響と音楽関連産業 II」	3	-	

講演 演 件 数	「超音波センサ技術の最新開発動向」	7	-
	「知られざる耳鳴の実態とメカニズム ーその2 耳鳴における最近の科学と 治療」	5	-
	「マルチモーダルな音のデザイン」	14	-
	「災害等非常時屋外拡声システムの最 新の学会動向」	5	-
	「軟骨伝導の基礎研究と補聴器・携帯 電話・イヤホンへの応用」	4	-
	「聴覚情景知覚の神経科学の新展開」	-	5
	「音声表情に着目した情報処理技術 ー現状認識と将来展望ー」	-	8
	「これからの音響シミュレーション技術」	-	7
	「環境騒音の社会調査」	-	11
	「建築・環境音響実務への数値解析の 応用と課題」	-	13
	「ヒアリング・ループとその他の補聴支 援技術」	-	6
	「自動車の音にこだわる ー制御からデ ザインへー」	-	11
	「プログラミングと音響教育」	-	6
計	551	552	

※「」は、スペシャルセッションのテーマ名

特別 講演	演 題	感性的工学的なモデル化 ーモノ・コ ト・カンケイを魅力的にする技術ー	会津から世界へ、世界から会津 へ ー会津大学のチャレンジー
	講 師	中央大学・副学長・理工学部教授 加藤 俊一 氏	会津大学副学長・研究科長 程子学 氏

(4) 技術動向レビューの実施

2015年春季は、2015年3月16日に「マイクロホンアレイを用いた音の可視化」をテーマとして実施した。2015年秋季は、2015年9月16日に「1ビット技術の理論と応用」をテーマとして実施した。

5. 研究会の開催

(1) 本年度に実施した各研究会の活動概要は次表のとおりである。なお、音響化学研究委員会は今年度で解散した。

研究会名	委員長 (敬称略)	開催回数	発表件数	備考
超 音 波	伊藤 洋一	11	124	電気音響、アコースティックイメージング研究会との合同開催の分を含む
騒音・振動	矢野 隆	10	67	建築音響アコースティックイメージング研究会との合同開催分の含む
電 気 音 響	羽田 陽一	7	170	超音波、音声、聴覚研究会との合同開催の分を含む
音 声	間野 一則	7	174	電気音響、聴覚研究会との合同開催の分を含む
聴 覚	赤木 正人	9	139	電気音響、音声、建築音響、騒音・振動研究会との合同開催の分を含む
建 築 音 響	羽入 敏樹	10	52	聴覚、騒音・振動研究会との合同開催の分を含む
音 楽 音 響	山田 真司	8	62	
アコースティック イメージング	坂本 慎一	5	46	超音波、騒音・振動研究会との合同開催の分を含む
合 計		67	834	

- (2) 騒音・振動，聴覚，建築音響及び音楽音響研究会資料の年間購読の請求事務は学会事務局で実施した。

6. 国際交流

(1) 国際会議の開催・準備等

ア. 2016年11月28日～12月2日の間，ハワイ(ホノルル市，Hilton Hawaiian Village)において開催する第5回日米ジョイントミーティングの準備を行った。

- (2) 当学会が加盟団体となっている国際音響学会(ICA)，国際騒音制御工学会(I-INCE)の総会等に出席し，その活動に協力した。また，西太平洋地区音響学会(WESPAC)に協力した。

7. 音響規格の調査・作成

- (1) 当学会で原案作成を行った日本工業規格(JIS)に関して5年ごとの見直し作業を行った。

- (2) 音響に関する国際規格(ISO/TC 43，同/SC1，同/SC2，同/SC3及びIEC/TC29関係)の審議を日本規格協会から委託され，それぞれの専門委員会(橘秀樹委員長[ISO]，堀内竜三委員長[IEC])において審議し，結果をとりまとめて報告した。

8. 調査研究委員会の活動

(1) 道路交通騒音予測手法の調査研究

(株)高速道路総合技術研究所との共同研究により，「道路交通騒音の予測精度向上に関する研究」を実施した。道路交通騒音調査研究委員会(坂本慎一委員長)が作業を実施した。

(2) 音響教育に関する調査研究

音響教育調査研究委員会(西村明委員長)において，音響教育に関する現状の調査研究及び将来の音響教育のあり方等について審議を行った。なお，8月1日，2日の2日間，国立科学博物館「夏休みサイエンススクエア」に，10月17日，国立科学博物館「音の科学教室」に出展・参加した。また，音響教育調査研究委員会は，発展的に解散し，新たに，学術委員会のもとに音響教育委員会として発足する。

(3) 音バリアフリーに関する調査研究

音バリアフリー調査研究委員会(白石君男委員長)において，聴覚障害者のための会話システムの研究，デバイスの研究・開発・実用化及び普及を目的とした活動を行った。なお，平成28年3月に騒音・振動研究委員会，聴覚研究委員会と共催して研究会を開催した。

(4) 音と脳科学に関する調査研究

音と脳科学調査研究委員会(本田学委員長)において，人と音と脳の関わりについての調査研究を実施していたが，当初の目的を終了したことにより解散した。

(5) 熱音響技術に関する調査研究

熱音響技術調査研究委員会(渡辺好章委員長)において，既存のエネルギー変換システムが抱える廃熱の利用を目的とする調査研究を実施した。

(6) 音のデザインに関する調査研究

音のデザイン調査研究委員会(岩宮眞一郎委員長)において，製品音，サイン音，サウンドスケープ，音環境等の音のデザインについて，包括的に調査研究を行い，音のデザインの必要性，可能性，将来性を発信することを目的とする活動を実施した。

(7) 災害等非常時屋外拡声システムのあり方に関する調査研究

災害等非常時屋外拡声システムのあり方に関する技術調査研究委員会(鈴木陽一委員長)において，防災行政無線子局の屋外拡声システム等に関する調査研究を行った。

(8) 軟骨伝導に関する調査研究

軟骨伝導の基本メカニズムとその応用技術等について検討する軟骨伝導調査研究委員会(細井裕司委員長)において，軟骨伝導応用機器の普及，軟骨伝導音の校正法の規定等に関する調査研究を行った。

(9) 生物音響に関する調査研究

生物音響に関する研究の進歩と研究母体の拡大を図り、生物音響学分野の研究成果の発表、情報交換、連絡連携を目的とする生物音響調査研究委員会（力丸 裕委員長）において、調査研究を行った。

9. 選 奨

(1) 功 績 賞

音響に関する学術又は関連事業に対し、特別の功績があると認められる方に贈られるもので、第39回功績賞受賞者は、香野 俊一、辻野 次郎丸、山田 伸志の3氏に決定した。なお、賞の贈呈は通常総会の際に行う。

(2) 佐藤論文賞

音響学に関し学術上及び技術上貢献するところが大きい研究業績を本学会誌に発表した方に贈られるもので、学会誌70巻1号～12号、71巻1号～12号並びにAST誌Vol.35 No.1～No.6, Vol.36 No.1～No.6に掲載された論文中から優秀な論文を選び、2016年春季研究発表会選奨会場(2016年3月10日)で本賞を贈呈した。

第56回佐藤論文賞受賞論文(敬称略)

- 「Power-law dependence describing subharmonic generation from a non-spherically oscillating bubble」AST誌36巻3号(2015)
吉田 憲司(千葉大)、森岡 峻一、香川 幸大、小山 大介、渡辺 好章(同志社大)
- 「A method for estimating vocal-tract shape from a target speech spectrum」
AST誌36巻5号(2015)
鏑木 時彦(九州大)

(3) 環境音響研究賞

環境音響学の発展に貢献した、主として建築音響分野又は騒音分野に関連する一連の研究を対象とするもので、会員から推薦のあった候補者から優秀な者を選び、2016年春季研究発表会選奨会場(2016年3月10日)で本賞を贈呈した。

第7回環境音響研究賞受賞者(敬称略)

- 大鶴 徹(大分大学)
「波動音響数値解析の高精度化・実用化のための一連の研究」
- 佐藤 洋(産業技術総合研究所)
「主観的評価に基づく音環境の評価と標準化」

(4) 独創研究奨励賞 板倉記念

音響学に関する独創的な研究を行った若手会員の方に贈られるもので、会員から推薦のあった候補者から優秀な者を選び、2016年春季研究発表会選奨会場(2016年3月10日)で本賞を贈呈した。

第11回独創研究奨励賞 板倉記念 受賞者(敬称略)

- 宮崎 亮一(徳山工業高等専門学校)
「ミュージカルノイズフリー理論に基づくブラインド音声抽出に関する研究」

(5) 栗屋 潔学術奨励賞

有為と認められる新進の研究・技術者の方に贈られるもので、2015年春季研究発表会並びに秋季研究発表会の講演者のうちの本賞受賞対象者から優秀な者を選び、2015年秋季研究発表会選奨会場(2015年9月17日)及び2016年春季研究発表会選奨会場(2016年3月10日)でそれぞれ本賞を贈呈した。なお、2015年秋季研究発表会から、受賞資格を「学生会員である者又は年度末において満年齢39歳以下の正会員」と変更した。

第38回栗屋 潔学術奨励賞受賞者(敬称略/2015年春季研究発表会, 5名)

- 森川 大輔(北陸先端科学技術大学院大学)
「両耳間時間差による音像定位に頭部運動が与える影響」

- 郡山 知樹 (東京工業大学)
「ガウス過程回帰に基づく音声合成システムの検討」
- 藤平 晴奈 (九州大学)
「音声に対する聴性脳幹反応からみた残響により単語理解度が低下する高齢者の特徴」
- 矢田部 浩平 (早稲田大学)
「間接 Trefftz 法を用いた 1p 単位球形状室の数値解析」
- 李 孝振 (東京大学)
「ペンローズタイル型拡散体の開発 –非周期構造による音響散乱特性の数値解析–」

第 39 回栗屋 潔学術奨励賞受賞者 (敬称略/2015 年秋季研究発表会, 5 名)

- 井上 尚久 (東京大学)
「薄型チャンバーを用いた斜入射吸音率測定法の開発 その 2 –数値解析と実測による検証–」
- 大谷 大和 ((株)東芝)
「平静音声から予測した感情付与モデルに基づく統計的感情音声合成」
- 田中 彩 (鹿島建設(株))
「発話空間が携帯電話音声の聴き取りにくさに及ぼす影響 –携帯電話の音声情報処理方式による差異–」
- 程島 奈緒 (東海大学)
「残響下での発話変化を応用した公共空間での音声明瞭度改善 –話者による明瞭度の違い–」
- 山岸 慎平 (東京工業大学)
「音脈知覚の神経相関 –脳幹から視床・聴覚野–」

(6) 学生優秀発表賞

春季又は秋季研究発表会において優秀な発表を行った学生会員に贈られるもので、2015 年春季研究発表会並びに秋季研究発表会の講演者のうちの本賞受賞対象者から優秀な者を選び、2015 年秋季研究発表会選奨会場(2015 年 9 月 17 日)及び 2016 年春季研究発表会選奨会場(2016 年 3 月 10 日)でそれぞれ本賞を贈呈した。

第 11 回学生優秀発表賞受賞者 (敬称略/2015 年春季研究発表会, 20 名)

Patrick Lumban Tobing(奈良先端科学技術大学院大学), 磯中 佑樹(早稲田大学), 稲田 環(九州大学), 岩崎 亘(立命館大学), 上田 賢次郎(早稲田大学), 内田 庸助(桐蔭横浜大学), 大橋 稔(東京工業大学), 門脇 健人(東京大学), 黒川 祐作(東北大学), 河野 峻也(東京電機大学), 小松 創(立命館大学), 宿南 篤人(広島市立大学), 高橋 怜央奈(筑波大学), 田丸 綾香(九州大学), 土屋 寛太朗(東海大学), 樋田 浩一(明治大学), 長岡 大地(東京工科大学), 房安 陽平(神戸大学), 藤垣 健太郎(東京大学), 村上 顕央(千葉大学)

第 12 回学生優秀発表賞受賞者 (敬称略/2015 年秋季研究発表会, 20 名)

板倉 光佑(京都大学), 伊藤 瑠美(立命館大学), 上野 智生(神奈川大学), 奥谷 晃久(同志社大学), 押尾 翔平(東京工業大学), 角田 歩(同志社大学), 黒山 喬允(筑波大学), 立川 智哉(早稲田大学), 田中 宏(奈良先端科学技術大学院大学), 田中 宏樹(東京工業大学), チタノン ナチャナン(早稲田大学), 中嶋 広明(東京大学), 橋本 悌(東京大学), 松川 沙弥果(同志社大学), 村田 直毅(東京大学), 森 健太郎(東京電機大学), 森岡 幹(早稲田大学), 森谷 崇史(東京工業大学), 山中 悠勢(早稲田大学), 山本 克彦(和歌山大学)

(7) 技術開発賞

音響に関する工学技術の進歩発展に特に貢献したと認められる本会賛助会員の代表者, 賛助会員所属の個人, グループに贈られるもので, 公募により推薦された候補の中から優秀なものを選んだ。なお, 賞の贈呈は通常総会の際に行う。

第 24 回技術開発賞受賞者 (敬称略)

- 日本電信電話(株)コミュニケーション科学基礎研究所/パナソニック(株)AVC ネットワークス社/(株)パナソニックシステムネットワークス開発研究所/(株)NTT ドコモ

「低遅延音声響統合符号化システムの開発と 3GPP EVS の標準化」
鎌本 優, 原田 登, 守谷健弘 (日本電信電話(株)コミュニケーション科学基礎研究所),
江原宏幸, 三田貴子 (パナソニック(株)AVC ネットワークス社),
河嶋拓也 ((株)パナソニックシステムネットワークス開発研究所),
菊入 圭, 仲 信彦, 堤 公孝, 大崎慎一郎 ((株)NTT ドコモ)

- 日本放送協会放送技術研究所/ソニー(株)
「MPEG-4 AAC を用いた 22.2ch 音声符号化・復号装置の開発」
杉本岳大, 中山靖茂, 小森智康, 渡辺 馨, 大出訓史 (日本放送協会放送技術研究所)
知念 徹, 畠中光行, 辻 実, 本間弘幸 (ソニー(株))

(8) 学会活動貢献賞

本学会活動の活性化に多大な貢献があった若手の正会員又は学生会員を顕彰する目的で贈られるもので、今年度は次の 3 名を選定した。なお、2016 年春季研究発表会選奨会場(2016 年 3 月 10 日)で本賞を贈呈した。

第 3 回学会活動貢献賞受賞者 (敬称略)

- 佐藤 逸人 (神戸大学)
○星 和磨 (日本大学)
○宮内 良太 (北陸先端科学技術大学院大学)

10. 講習会, 講演会及びセミナーの開催

(1) 講習会 (敬称略)

事業委員会 (片岡章俊委員長) が今年度を実施した講習会及び技術セミナーは以下のとおりである。

ア. 「音響技術のアプリ化とスマートフォンやタブレット端末への実装」 (第 139 回技術講習会)

期 日 ; 2015 年 6 月 15 日~16 日 会場 ; 全国家電会館
講 師 ; 坂本真一 ((株)オトデザイナーズ), 古晒貴光 ((株)アプサ)
田中 勉 ((株)アローズネクスト)

受講者数 ; 30 名

イ. 「音源定位と音源分離の基礎」(第 140 回技術講習会)

期 日 ; 2015 年 7 月 2 日~3 日 会場 ; 全国家電会館
講 師 ; 浅野 太 (工学院大学)

受講者数 ; 35 名

ウ. 「音響インパルス応答計測の基礎」(第 141 回技術講習会)

期 日 ; 2015 年 8 月 28 日 会場 ; 東京電機大学北千住キャンパス
講 師 ; 金田 豊 (東京電機大学)

受講者数 ; 27 名

エ. 「音響・振動における FDTD 法の基礎と応用」(第 142 回技術講習会)

期 日 ; 2015 年 10 月 27 日~28 日 会場 ; 東京大学生産技術研究所
講 師 ; 坂本慎一 (東京大学), 佐藤雅弘 (富山大学), 土屋健伸 (神奈川大学),
豊田政弘 (関西大学)

受講者数 ; 34 名

オ. 「Praat による音声加工と知覚実験の実施法」(第 143 回技術講習会)

期 日 ; 2015 年 11 月 12 日~13 日 会場 ; 東京大学生産技術研究所
講 師 ; 北原真冬 (早稲田大学), 田嶋圭一 (法政大学), 田中邦佳 (法政大学)

受講者数 ; 38 名

カ. 「ビジュアルプログラミング言語 Pure Data によるサウンドプログラミング」 (第 144 回技術講習会)

期 日 ; 2015 年 11 月 26 日~27 日 会場 ; 全国家電会館
講 師 ; 青木直史 (北海道大学), 藍 圭介 ((株)スマイルブーム)

受講者数 ; 18 名

キ. 「R を用いた統計の基礎講座」(第 145 回技術講習会)

期 日 ; 2015 年 11 月 30 日~12 月 1 日 会場 ; 全国家電会館

講師；鈴木公啓(東京未来大学), 橋本貴充(大学入試センター)
受講者数；7名

(2) サマーセミナー(敬称略)

ア. 「音響学の基礎と最近のトピックス」(第17回サマーセミナー)

期日；2015年7月26日～28日 会場；長野県白馬・シエラリゾート白馬
講師；池田雄介(早稲田大学), 伊藤洋一(日本大学), 及川靖広(早稲田大学),
大内康裕(早稲田大学), 大川茂樹(千葉工業大学), 坂本慎一(東京大学),
須田宇宙(千葉工業大学), 武岡成人(静岡理工科大学),
中村健太郎(東京工業大学), 長谷川英之(富山大学), 三浦雅展(龍谷大学),
山崎芳男(早稲田大学)
受講者数；59名

(3) ビギナーズセミナー

活性化・若手育成委員会(猿渡 洋委員長)で初学者を対象にビギナーズセミナーを開催した。2015年春季研究発表会では「プロフェッショナル研究者の意外と知られていない日常」をテーマとして, 2015年秋季研究発表会では「今話題のあの技術ってどうなってるの?」をテーマとして実施した。

1 1. 出版事業

(1) 出版委員会に属する3つのシリーズ編集委員会, 音響テクノロジーシリーズ編集委員会(坂本慎一委員長), 音響入門シリーズ編集委員会(羽田陽一委員長), 音響サイエンスシリーズ編集委員会(平原達也委員長)において, それぞれ企画内容について審議し, 出版した。なお, 平成27年度の発行状況は以下の通りである。

ア. 音響サイエンスシリーズ

- ・音と時間 (音響サイエンスシリーズ13) (2015/07/17発行)
- ・FDTD法で見る音の世界 DVD付 (音響サイエンスシリーズ14) (2015/12/16発行)

(2) 音響キーワードブック編集委員会(中村健太郎編集委員長)において, 編集作業を行い, 「音響キーワードブック DVD付(2016/03/22刊行)」を刊行した。なお, 同書籍は, 日本音響学会創立80周年記念出版として刊行した。

(3) 音響学講座編集委員会(安藤彰男委員長)において編集作業を行い, 全10巻で編成を予定し, それぞれ巻について執筆者の選定を進める。

(4) 音響用語辞典編集委員会(伊藤彰則委員長)において, 用語の選定作業を行い, 出版準備を進めた。

(5) 音響学入門ペディアの作成委員会を音響学入門ペディア編集委員会(羽田陽一委員長)に改組し, 出版の準備を進めた。

1 2. 学会電子化推進に関する活動

広報・電子化委員会(尾本章委員長, 小澤賢司副委員長)において, Web, メーリングリスト, Facebook及び研究発表会会場における広報活動等, 各種会員サービスを行った。

1 3. 会勢拡大及び広報に関する活動

(1) 会勢拡大委員会(亀川 徹委員長, 坂本 修一副委員長)において, 会員の増加策等会勢の拡大につながる諸策を検討し, 今期は, 非会員の勧誘をはかるために, 各研究委員会と連携をとりながら, 非会員が所属する学会と連携して研究会等を企画することを, 実施した。

(2) 活性化・若手育成委員会(猿渡 洋委員長)において, サマーセミナーの実施, ビギナーズセミナーの開催, 学生フォーラムの活動の活性化を図る活動を行った。

14. 財政改善に関する活動

- (1) 財務改善委員会（飯田一博委員長，吉村純一副委員長）において，賛助会員のメリットの整理・追加を行い，入会の勧誘を行った。また，研究発表会ポスターセッションの空きコマを有効に活用するため，賛助会員にポスター展示の希望を募り，実施した。
- (2) 2016年春季研究発表会において，当学会賛助会員と主に博士後期課程在学の学生会員を対象として情報交換を目的とする交流会を実施した。

15. 寄付制度の新設と学会活動活性化

平成27年度から寄付制度を新設し，平成28年度会費の請求に併せて名誉会員，終身会員，正会員にご寄付を募った。なお，拠出いただいた寄付金は，学会活性化積立資産として積み立て，学会活性化に関する事業に支出する。

16. 通常総会の開催

第49回通常総会は，2015年5月27日，全国家電会館において開催した。なお，出席者は，121名（うち議決権行使書の提出による出席79名）であった。

17. 理事会，役員会並びに委員会活動

- (1) 理事会
平成27年度理事会は，2015年4月，5月，6月，7月，9月，10月，11月，12月，2016年1月，2月，3月の11回開催した。
- (2) 役員会
平成27年度役員会は，2015年8月を除く毎月，計11回開催した。
- (3) 企画委員会
平成27年度企画委員会（伊藤洋一委員長）は，2015年8月，2016年3月を除く毎月，計10回開催した。
- (4) 編集委員会
平成27年度編集委員会（伊藤彰則委員長）は，2015年5月，6月，7月，9月，11月，2016年1月及び3月の計7回開催した。
- (5) 学術委員会
平成27年度学術委員会（安藤彰男委員長）は，2015年6月，9月，12月，2016年3月の4回開催した。
- (6) 研究発表会準備委員会
平成27年度研究発表会準備委員会（土屋隆生委員長）は，2015年6月，9月，12月，2016年3月の4回開催した。なお，研究発表会プログラム編成委員会は，6月，12月の2回開催した。
- (7) 広報・電子化委員会
平成27年度広報・電子化委員会（尾本章委員長，小澤賢司副委員長）は，2015年9月，2016年3月の2回開催した。
- (8) 事業委員会
平成27年度事業委員会（片岡章俊委員長）は，2015年9月，2016年3月の2回開催した。
- (9) 国際渉外委員会
平成27年度国際渉外委員会（坂本慎一委員長）は，2015年9月，2016年3月の2回開催した。
- (10) 出版委員会
平成27年度出版委員会（羽田陽一委員長）は，2015年9月，2016年3月の2回開催した。

18. 他学協会等からの共催等依頼

区 分	件 数	摘 要
共 催	1 件	(一社)電子情報通信学会
協 賛	40 件	(公社)日本騒音制御工学会ほか
後 援	6 件	(一社)日本建築学会ほか
計	47 件	

19. 支部所属会員

(1) 関西支部

会員種別	平成 27 年度			参 考	
	2015. 4. 1 現在数(A)	2016. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2015. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	6	7	1	6	1
終身会員	21	22	1	19	3
正 会 員	492	472	△20	487	△15
学生会員	174	192	18	178	14
(合計)	693	693	0	690	3

(2) 東北支部

会員種別	平成 27 年度			参 考	
	2015. 4. 1 現在数(A)	2016. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2015. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	3	3	0	3	0
終身会員	13	13	0	10	3
正 会 員	142	141	△1	143	△2
学生会員	61	86	25	61	25
(合計)	219	243	24	217	26

(3) 東海支部

会員種別	平成 27 年度			参 考	
	2015. 4. 1 現在数(A)	2016. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2015. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	1	1	0	1	0
終身会員	15	14	△1	11	3
正 会 員	279	274	△5	280	△6
学生会員	101	98	△3	100	△2
(合計)	396	387	△9	392	△5

(4) 九州支部

会員種別	平成 27 年度			参 考	
	2015. 4. 1 現在数(A)	2016. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2015. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	0	0	0	0	0
終身会員	7	7	0	6	1
正 会 員	178	171	△7	175	△4
学生会員	78	76	△2	80	△4
(合計)	263	254	△9	261	△7

(5) 北陸支部

会員種別	平成 27 年度			参 考	
	2015. 4. 1 現在数(A)	2016. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2015. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	0	0	0	0	0
終身会員	1	0	△1	1	△1
正 会 員	64	69	5	62	7
学生会員	39	43	4	40	3
(合計)	104	112	8	103	9

20. 支部の事業

(1) 関 西 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2015年4月、6月、10月、12月、2016年1月、3月の6回開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	27. 4. 17	立命館大学大阪いばら きキャンパス	出席者 141 名(うち委任状 114 通) ／定足数 103 名
講演会・見学会	27. 4. 17	立命館大学大阪いばら きキャンパス	武田史朗先生、日野宏二様による新キャンパスに関する講演、西浦敬信先生による講演 キャンパス内の施設見学 参加者 46 名
聴覚研究会	27. 7. 21 ～ 22	ジーベックホール	発表 9 件 参加者 38 名
騒音・振動研究会	27. 7. 31	関西大学千里山キャン パス	発表 7 件 参加者 22 名
音響化学研究会	27. 7. 31	日本ペイントホールデ ィングス(株)	発表 11 件 参加者 27 名
講演会・見学会	27. 10. 7	丹波ワイン	黒井衛社長より「ワインと文化」の講演。農園やワイナリーの見学 参加 17 名
音声研究会(共催)	27. 10. 15 ～ 16	神戸大学瀧川記念学術 交流会館	発表件数 11 件 参加者 37, 27 名
建築音響研究会	27. 10. 29	京都大学桂キャンパス	発表 5 件 参加者 26 名
第 18 回若手研究者 交流研究発表会	27. 12. 13	関西大学 100 周年記念 会館	講演会, ポスターセッション, 懇親 会 発表 45 件 参加者 120 名
建築音響研究会	27. 12. 22	舞鶴工業高等専門学校	発表 5 件 参加者 18 名
第 2 回関西企業における 音響技術の研究開発	28. 3. 17	立命館大学大阪梅田キ ャンパス	発表 6 件 参加者 41 名
Deep learning と音響分 野への応用(第 2 回)	28. 3. 28	京都大学学術情報メデ ィアセンター	発表 5 件 参加者 48 名
超音波／電気音響研究 会(併催)	28. 1. 28 ～ 29	関西大学千里山キャン パス	発表件数 18 件(超音波), 4 件(電気 音響), 7 件共通講演 参加者 51 名, 58 名

(2) 東 北 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は東北大学大学院工学研究科において、2016年2月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	27. 4. 22	東北大学工学部	
第 1172 回学術講演会	27. 4. 22	東北大学工学部	「インターネット時代の発音学習支援システム」 講師 三輪譲二 氏(岩手大学) 来聴者 200 名
聴覚／電気音響研究会	27. 8. 3 ～ 4	東北大学電気通信研究所	
音声研究会	27. 8. 21	岩手県立大学アイーナ キャンパス	
電気関係学会東北支部 連合大会	27. 8. 27 ～ 28	岩手県立大学	発表件数 229 件, セッション数 38, 参加者 450 名 (のべ) 特別講演 「国際リニアコライダー (ILC) 計画とその実現に向けて」 講師: 鈴木厚人 氏(岩手県立大学 学長) 来聴者 160 名
騒音・振動／アコーステ ィックイメージング研 究会	27. 10. 16	八戸工業大学	
平成 28 年東北地区若手 研究者研究発表会(共 催)	28. 3. 1	日本大学工学部	「音・光・電波・エネルギー・シ ステムとその応用」
東北大学電気通信研究 所一般公開 2015(後援)	27. 10. 10 ～ 11	東北大学電気通信研究 所	来聴者 2687 名

ウ. 若手研究者優秀論文賞

東北支部が主催又は共催した若手研究者発表会, 電気関係学会支部連合大会における若手研究者を対象として応募者を募り特に優れたものを表彰した。今年度の受賞者は 4 名であった。

エ. 東北支部創立 60 周年記念行事

平成 27 年 9 月 15 日, 会津大学を会場として, 東北支部創立 60 周年記念式典, 記念講演会を開催した。記念式典の参加者は 40 名, 記念講演会の来聴者は 160 名, 取材は 3 件であった。なお, 創立 60 周年記念誌を刊行し, 同じ内容を支部ホームページに掲載した。

(3) 東 海 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は, 2015 年 3 月, 12 月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会・講演会	27. 3. 24	名城大学 MSAT	出席者 19 名 講演 1 件
聴覚研究会(後援)	27. 5. 28. ～ 29	豊橋技術科学大学	講演件数 17 件
騒音・振動研究会(後援)	27. 5. 28	大同大学滝春キャン パス	参加者 30 名 講演件数 6 件
東海地区音声関連研究 室修士論文中間発表会 (後援)	27. 7. 25	静岡大学工学部	参加者 142 名 講演件数 51 件
電気・電子・情報関係学 会東海支部連合大会	27. 9. 28 ～ 29	名古屋工業大学	参加者 1,036 名 シンポジウム 3 テーマ 一般講演 597 件 音響学会関連発表 8 件

支部見学会	27. 11. 6	(株)ブラザー工業	参加者 21 名
超音波研究会(後援)	27. 11. 9	産業技術研究所名古屋駅前イノベーションハブ	参加者 24 名 講演軒数 9 件
建築音響, 騒音・振動関連若手研究発表会(後援)	27. 12. 12	愛知工業大学本山キャンパス	講演 7 件
2015 年度学生表彰式	28. 3. 25	オフィスパーク名駅プレミアムホール	出席者 17 名 (うち表彰学生 3 名)

(4) 九州支部

ア. 支部役員会

支部役員会は, 2016 年 3 月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
音響教育研究会	27. 8. 22	九州大学	共催
電気・情報関係学会九州支部連合大会	27. 9. 26 ～ 27	福岡大学	共催 講演件数 498 件, うち音響関係 7 件
電気音響研究会	27. 11. 12 ～ 13	熊本大学	共催
第 2 回生物音響学会年次研究発表会	27. 11. 25	九州大学	共催
第 11 回学生のための研究発表会	27. 11. 28	九州工業大学戸畑キャンパス	主催 口頭発表 17 件, ポスター発表 29 件, 参加者 80 名
騒音・振動研究会	27. 12. 18	大濱信泉記念館	共催
聴覚研究会	27. 12. 19 ～ 20	熊本県立大学	
聴覚研究会	28. 2. 20 ～ 21	那覇市 IT 創造館	
聴覚/騒音・振動研究会/音バリアフリー調査研究委員会	28. 3. 4 ～ 5	九州大学	
音声/電気音響研究会	28. 3. 28 ～ 29	別府国際コンベンションセンター	
支部総会	28. 3. 26	九州大学	出席者 61 名(うち委任状提出者 35)

ウ. 学生表彰

九州支部が主催又は共催した研究発表会, 研究会等における学生の発表を対象として応募者を募り特に優れたものを表彰した。今年度の受賞者は 8 名であった。

エ. 九州支部学会活動貢献賞

今年度から九州支部学会活動貢献賞を設置し, 苜木禎史氏(熊本大学)を選定した。

(5) 北陸支部

ア. 支部役員会

支部役員会は, 2015 年 4 月, 6 月, 10 月, 2016 年 1 月, 3 月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	27. 4. 11	金沢大学サテライト・プラザ	出席者 21 名 (うち委任状提出者 16 名)
電気関係学会北陸支部連合大会	27. 9. 12 ～ 13	金沢工業大学	音波・音響関係部門 講演 15 件 (うち招待講演 1 件) 学生優秀論文発表賞 7 件
音楽音響研究会	27. 11. 14	金沢工業大学	講演 5 件 参加者 29 名
騒音・振動研究会	27. 11. 27	しいのき迎賓館	講演 6 件 参加者 14 名
電気音響研究会	27. 12. 11 ～ 12	金沢大学サテライト・プラザ	講演 15 件 (招待講演 4 件) 参加者 81 名
第 7 回北陸合同音響セミナー「ビギナー成果発表会」	27. 12. 13	金沢大学サテライト・プラザ	招待講演 4 件 ポスター発表 14 件 参加者 76 名
北陸地区学生による研究発表会	28. 3. 8	石川高等工業専門学校	音波・音響部門発表 4 件
特別講演「賢い音声ー音声翻訳の試みーコンピューターを怒らせる, コンピューターを悲しませる」	28. 3. 8	石川高等工業専門学校	招待講演 赤木正人 (JAIST) 参加者 70 名
平成 28 年度日本音響学会北陸支部優秀学生賞の贈呈	28. 3. 8	—	受賞者 10 名
第 8 回北陸合同音響セミナー「北陸地区交流講演会ー北陸ゆかりの音響関係者ー」	28. 3. 19	金沢大学サテライト・プラザ	招待講演 4 件 ポスター発表 14 件 参加者 22 名

ウ. 表彰

- ・平成 28 年 3 月 8 日, 平成 28 年度優秀学生賞を 10 名に贈呈した。

事業報告書の附属明細書

特に記載すべき重要な事項はありません。